

平成 26 年度 傾斜的研究費（全学分） 研究報告書

【研究代表者所属】：産業技術研究科情報アーキテクチャ専攻

【研究代表者氏名】：小山 裕司

【研究代表者氏名フリガナ】：コヤマ ヒロシ

【研究代表者職】：教授

【国内研究分担者（所属,氏名,職）】

・無し

【国外研究分担者（所属,氏名,職）】

・無し

【研究課題名】：情報アーキテクチャ専攻の知識体系・知識単位に関する研究

【研究実績の概要（600～800 字程度で記入。図，グラフ等の使用も可。）】

当研究課題の「情報アーキテクチャ専攻の知識体系・知識単位に関する研究」では、本学情報アーキテクチャ専攻カリキュラム委員会が平成 25 年度に開発した知識体系・知識単位・達成度等の仕組みを継続的に運用・評価・改修するために、以下の研究活動を行った。

1. 既に運用状態にある、当仕組みの実装である情報システムを運用及び継続的改良を行った。当情報システムでは、学生の授業科目及び成績から即座に知識体系・知識単位・達成度・人材像・評価を算出、表示することができる。
2. 平成 25 年度、平成 26 年度の 2 年間の運用から知識体系・知識単位の評価及び改修を行った。また、平成 26 年度から文部科学省の委託事業で教育プログラムを開発し、平成 27 年度から試行運用を行う「事業アーキテクト」コース及び新設科目に関連し、知識体系・知識単位の改修を行った。

情報アーキテクチャ専攻の知識体系・知識単位の仕組みは、2013 年度から修了時に発行するディプロマサプリメントで活用され、また当専攻では達成度に応じて修了時に人材像及びレベルの表彰を行っている。また、学生は修学のあらゆる段階で知識体系に対して何を学び何が不足しているかを確認できまた知識体系を構成する知識単位ごとの達成度を確認できる。この結果修学の振り返ることができ次に何を学ぶべきかを知ることができる。当研究では、本学情報アーキテクチャ専攻の知識単位の仕組みの定着・成熟ができ、教育効果を高めることで、高度専門職育成の教育の質を改善に寄与できた。

【学会発表（発表題目，発表大会名，年月を記入）】

・無し

【論文発表又は著書発行（発表題目，著者，発表誌又は出版社，年月を記入）】

- 戸沢義夫、酒森潔、小山裕司「高度 IT 専門職大学院の教育目標を保証するカリキュラムの設計」情報処理学会 情報教育シンポジウム (SSS 2014)、2014 年 8 月
- 小山裕司、「高度専門職教育支援ソフトウェアの開発」産業技術大学院大学 紀要 第 8 号、2014 年 12 月、pp. 59-63
- 戸沢義夫、酒森潔、小山裕司、「情報アーキテクチャ専攻カリキュラム設計の考え方」産業技術大学院大学 紀要 第 8 号、2014 年 12 月、pp. 171-189
- 小山 裕司、「次世代成長産業分野での事業開発・事業改革のための高度人材養成プログラム 事業成

果報告」、高度人材養成のための社会人教育ワークショップ、2015年3月

【科学研究費補助金への応募状況、採択状況】

- 無し

【その他社会貢献】

[公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]

- 無し

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

(工業所有権の名称,発明者,権利者,工業所有権の種類・番号,出願年月日,取得年月日)

- 無し

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名,所属,金額(円))

- 小山 裕司産業技術研究科情報アーキテクチャ専攻 911 千円